

委員長コメント

(2006 (平成 18) 年エイズ発生動向の概要について)

1 HIV感染者・AIDS患者報告数

1) HIV感染者の報告数

2,006 年は、日本国籍・外国国籍合わせて 952 件と、過去最高となった(これまでの最高は前年の 832 件)[図 1 参照]。

日本国籍男性の増加が引き続き顕著で、報告数は 787 件と、過去最高となった(〔図 3 参照〕、HIV感染者報告全体(952 件)の約 83%)。

2) AIDS患者の報告数

日本国籍・外国国籍合わせて 406 件と、過去最高となった(これまでの最高は 2,004 年(平成 16 年)の 385 件)[図 1 参照]。

AIDS患者についても、日本国籍男性の増加が認められ、本年の報告数は 335 件と過去最高となった(これまでの最高は前年の 291 件)[図 9 参照]。

3) 結果

HIV感染者とAIDS患者の報告は、それぞれ過去最高となった。HIV感染者・AIDS患者合わせて 1,358 件であり、平均すると「1 日あたり 3.7 人」が新たに報告された。

2 感染経路

1) HIV感染者の感染経路

同性間の性的接触が 604 件(全 HIV感染者報告数の約 63%)、異性間の性的接触が 223 件(男性 155 件、女性 68 件。全 HIV感染者報告数の約 23%)であった。これらの性的接触によるものを合わせた 827 件のうち男性 759 件、女性 68 件となり、男性の割合は約 92%であった。

2) AIDS患者の感染経路

性的接触によるものが合わせて 304 件(男性 282 件、女性 22 件。全 AIDS患者報告数の約 75%)で、同性間の性的接触が 164 件、異性間の性的接触が 140 件(男性 118 件、女性 22 件。全 AIDS患者報告数の約 34%)であった。

3) 日本国籍男性の感染経路

HIV感染者・AIDS患者のいずれにおいても、同性間の性的接触が 1999 (平成 11) 年頃から急増しており、いずれも過去最高の報告数(HIV感染者 571 件、AIDS患者 156 件)となった。

4) 異性間性的接触による日本国籍HIV感染者累計報告数

日本国籍のH I V感染者累積報告数で見ると、15-24 歳では男性 99 人に対して女性 113 人と、女性の方がむしろ多い〔図 6 参照〕。

3 外国国籍H I V感染者・A I D S患者

H I V感染者は 116 件（前年 91 件）、A I D S患者は 51 件（前年 65 件）となっており、合計件数についても、感染経路についても、過去 10 年間では年次推移に大きな変化は見られない〔図 12〕。

4 推定される感染地域及び報告地

推定される感染地域は、H I V感染者の約 87%（828 件）、A I D S患者の約 78%（315 件）が国内感染であった。

報告地は、東京、その他の関東・甲信越ブロックが依然多く、H I V感染者の約 55%（528 件）、A I D S患者の約 52%（211 件）を占めている。また、年次推移をみると、関東・甲信越以外の全てのブロックにおいては、過去最高レベルの報告が続いている〔図 13 参照〕。

5 まとめ

2006（平成 18）年におけるH I V感染者とA I D S患者の報告数は、それぞれ過去最高となった。

H I V感染者を年代別に見ると、従来どおり 20-30 代が 68%と多数を占めたが、2006（平成 18）年の特徴として 40 代の大幅な増加が認められた。

感染経路別に見ると、異性間性的接触によるものが約 23%、同性間性的接触によるものが約 63%を占めた。なかでも男性のH I V感染者数においては、同性間性的接触が約 70%を占めており、約 74%が 20-30 代であった。

さらに、H I V感染は、これまでの東京を中心とする関東地域に加え、近畿、東海ブロックなど地方大都市においても報告数の増加傾向がみられている。

A I D S患者を年代別にみると、30-50 代が 85%を占めた。

したがって、20-40 代、同性愛者等の個別施策層を中心として、地域の実情に応じ、教育関係者、医療関係者、企業、N G O等との連携のもと積極的な予防施策が必要であり、各地域での対策の展開が望まれる。

なお、2006（平成 18）年エイズ発生動向の詳細については、6 月下旬に年報を公表予定である。